

はじめに

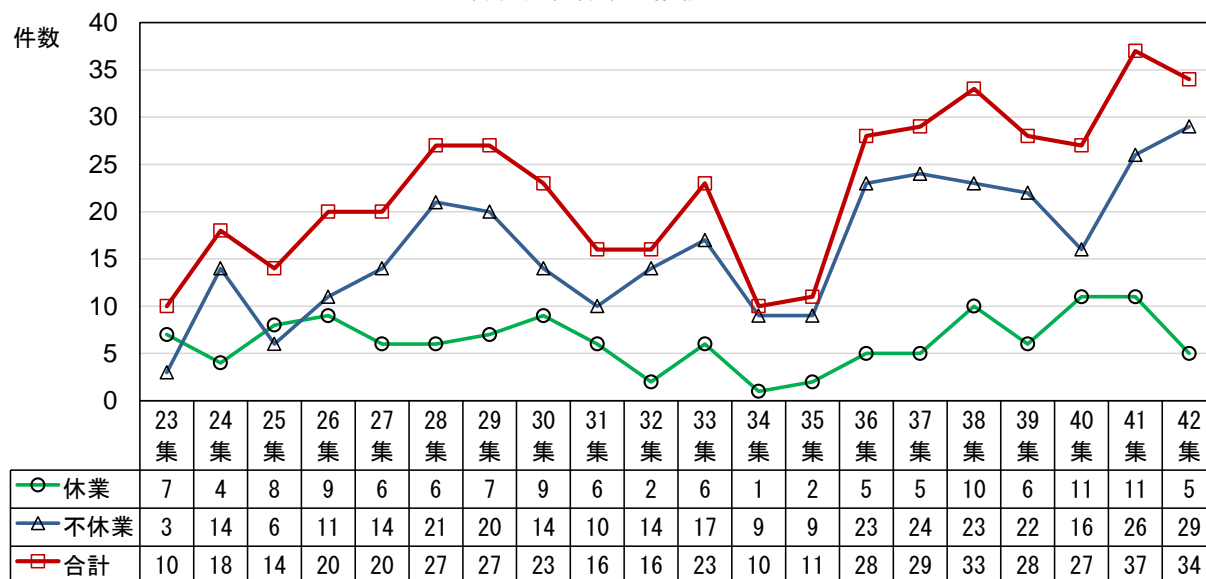
関係者のご協力により、労働災害事例研究第42集を発行することができました。

今回の事例集は、令和4年1月から12月までに当連絡協議会に加盟する企業で発生した労働災害として休業災害5件、不休業災害29件を収録しています。災害件数は、平成22年（第30集）から減少してきましたが、平成28年（第36集）より増加に転じて減少傾向が見えてこない状況にあります。

事故の型別では、【高温・低温の物との接触】が7件、【有害物との接触】が6件で【転倒】、【はさまれ、巻き込まれ】、【切れ、こすれ】が各4件で続いています。

熱中症（脱水症）が6件と多数発生しており、熱中症防止の取組みを継続していく必要があります。

労働災害件数の推移



コンビナート特有の労働災害として、薬傷やガス中毒などの【有害物等との接触】が6件であり、薬傷が3件、ガス中毒が2件発生しています。工事着手前には、事前の計画の通りに有害物質が除去されている必要があります。工事着手の環境が整っているのかを客先と共に確認することが必要です。

工事環境に少しでも不安がある場合には、エアラインマスク等を着用して工事に着手する等の用心深い工事対応が必要です。工事着手後にも異常を感じた場合は、ためらわずに工事を一時中止して客先と協議するようお願いいたします。

また、個人の安全に対する感性を向上させて、ちょっとした不注意や不安全行動から労働災害にいたることのないようにルール遵守を徹底してまいりましょう。この事例集にある軽微な労働災害は、相当数をなくすことが出来るのではないかと考えられます。

この事例集を職場で有効にご活用いただき、労働災害の防止に取り組んで頂くよう重ねてお願い申し上げます。

令和5年6月

四日市コンビナート協力会社
災害防止協議会等連絡協議会
会長 岩野 淳作